

## 日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

2023年7月 vol.2

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。

2023年5月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

硬膜下血腫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。</li> <li>・抗凝固・抗血小板薬内服中の高齢者では、急性硬膜下血腫によりtalk and deteriorate（急速な意識障害の進行）の経過をとりやすく、血腫の増大・症状の固定までの経過が長くなる可能性も報告されており注意を要する。しかしながら、最近の報告では内服中止での予後改善効果は乏しいことも示されており基礎疾患の状況・血栓塞栓性合併症リスクにより慎重に判断するべきとの考えもある（末廣 栄一ら、脳神経外科ジャーナル 2019；28：614-620.、大澤 祥ら、神経外傷 2021；44：1-7.、Widdop L, et al. J Neurotrauma. 2023 Apr;40(7-8):635-648.）。</li> <li>・軽症頭部外傷例の受傷時の抗血栓薬有無で慢性硬膜下血腫発生率には差が無いという報告もあり(Karibe H, et al. Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Mar 15;63(3):91-96.)、受傷後経過観察中の抗血栓薬休薬に関しては急性期同様に慎重に判断するべきである。</li> <li>・本邦および海外からの報告によると、抗血栓薬服用が慢性硬膜下血腫リスクを増大させることが示唆されており(上家 和子ら：超高齢社会における慢性硬膜下血腫のリスク関連要因に関するエビデンスの構築、JMARI 日本医師会総合政策研究機構、2018.、Gaist D, et al. JAMA. 2017 Feb 28;317(8):836-846.)、抗血栓薬を服用中の高齢者では明らかな外傷歴が無くても緩徐に症状経過（頭痛や認知障害などの精神症状、片麻痺やふらつきなどの歩行障害が進行）があれば慢性硬膜下血腫の可能性も念頭に入れる必要がある。</li> </ul>
八子刺傷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。</li> <li>・国内では皮膚テストよりも抗体測定のほうがアクセスがよいことが多い。「ミツバチ」「スズメバチ」「アシナガバチ」の血中特異的IgE抗体測定は幅広く多くの医療機関で施行でき、簡易的である。</li> <li>・執筆時現在（2023年4月）、世界中で八子毒抽出物の入手が困難となっており、免疫療法を受けることが難しくなっている。</li> </ul>
川崎病 (小児科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。</li> <li>・ヒト免疫グロブリン大量療法への不応予測スコアはいずれも十分な予測能を有しているとは言い難い状況にあった。</li> <li>・最近のメタアナリシスによると、不応予測における陰性的中率は、群馬スコア(5点)が0.85 (95%信頼区間 0.81-0.89)、大阪スコア(2点)が0.85 (95%信頼区間 0.77-0.91)、久留米スコア(3点)が0.88 (95%信頼区間 0.83-0.91)であった。これは、「不応ではない」と予測された症例のうち10~20%が実際には不応であったことを意味している。陽性的中率は最も優れていた群馬スコアでも0.39 (95%信頼区間0.32-0.46)であった (Kuniyoshi Y, et al. Pediatrics. 2023 May 1;151(5))。</li> </ul>
瞳孔異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、緊急性の高い疾患を強調した。</li> <li>・片眼の瞳孔散大を生じた動眼神経麻痺では瞳孔観察を明室で行うと瞳孔不同が明らかとなる。内頸動脈-後交通動脈分岐部動脈瘤の可能性が高く、まずは緊急で画像検査が必要である。一方、瞳孔障害のない動眼神経麻痺は糖尿病や虚血性であることが多く、画像検査に加えて採血等による確認が必要である。</li> </ul>

## 『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。  
約1,400の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。  
ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログインなしでご覧になることができます。



<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、③施設コードが必要です。管理者の方にご確認ください。

